

2024年5月1日

『地域にひらかれた、みんなにやさしい病院』開院

内覧会開始前には長蛇の列でした



岐阜勤労者医療協会 専務理事 大橋 正和

2020年5月に策定したみどり病院新築移転の事業計画からちょうど4年が経ち、新病院のオープンを迎えることができました。ひとえに岐阜健康友の会ならびに地域の皆様のご協力のおかげです。ありがとうございます。

先般開催いたしました内覧会では医療・介護・福祉関係者を含めて、1500名のご来場がありました。「きれいで気持ちが良いね」「個室が増えていいね」など様々な声をいただきました。職員は終日笑顔で誇らしくご案内ができて、多くの方々の期待を強く感じることができました。

新病院への引っ越しをゴールデンウィーク中におこないました。入院患者さんが安全に安心して新病院へ移っていたただけのように複数回おこなったリハールの成果もあり、無事に終えることができました。

新病院への引っ越しをゴールデンウィーク中におこないました。入院患者さんが安全に安心して新病院へ移っていたただけのように複数回おこなったリハールの成果もあり、無事に終えることができました。

岐阜健康友の会 2024年度 活動方針

今年度の活動方針では二つの柱があり、それぞれ下記の活動方針で進めます。

岐阜健康友の会事務局長 熊崎 辰廣

A 全体で協力しながら進める活動

1. 新病院建設のための「勤医協基金」目標達成に向けて、引き続き活動を進めます。また、歯科クリニックの開院に向けた取り組みを進めます。
2. 「健康まつり」を成功させましょう。
3. モルック大会を開催します。
4. 会員の要望・要求に基づく活動を進めます。
5. 安心して住み続けられる街づくりを進めます。
6. 平和と憲法を守る活動をすすめます。
7. 若い人の参加を呼びかけます。



B 各支部や班で進めたいこと

1. 支部活動の定着と、「健康とくらし」の手配りの活動をふやしましょう。
2. 支部ごとに居場所づくりを進めましょう。
3. 健康班会を色々なメニューで開催しましょう。
4. だれでも参加でき、気軽にお誘いできる楽しい班会を企画しましょう。

今年度も引き続き、「勤医協基金」の目標達成にむけての活動を中心にすすめます。そのなかでコロナの感染に留意しながら、昨年に引き続き、モルック大会など、できるだけ集まる活動を提案します。また、要望に応じて、学習の場を増やし、継続的に進めます。若い人も参加できる、要望にそったサークル活動を増やしましょう。

平和と憲法を守る課題では、具体的な目標設定をして進めます。一つは「九条の碑」の建設と、もう一つは「日野自衛隊射撃場の撤去と公園づくり」の運動に参加します。

今年の9月に岡山で開催される、第16回全日本民医連共同組織活動交流集会へ参加し、それぞれの支部活動に活かしましょう。

民間稲作研究所の稲葉光國さんの「有機農業と米作り」という本のなかに次のような指摘があります▼「一九五七年に日本は悲願であった米の完全自給を達成しました。三五〇〇年以上に及ぶ稲作史上の快挙でした▼しかし、やがて来る過剰生産の可能性を冷静に見通し、農民と共に量から質への転換と、当時存在した環境と共生するような環境保全型稲作の技術的発展が真剣に模索されていけば、今日のような苦難はなかったと思います。一九五二年（昭和二十七年）大原農学研究所が深水管理法によるヒエの防除法を発表した時、同時に除草剤「2・4・5」によるヒエ防除法が発表され、後者がその後の雑草防除技術の中心技術になったことは極めて象徴的でした▼環境共生型の除草技術は推進されず、後日ダイオキシン汚染を引き起こすこととなる除草剤の開発が官業一体で進められることになったのです。▼問題はなぜ、後者の除草剤多用の農業が進められていったか。規模拡大により農家の収入を増やすのを目的として、除草剤などの農薬と化学肥料の多投と、同時に機械化、工業化がすすめられました。それを後押ししたのは一九六〇年制定の農業基本法（今年三回目の改定）で、米の生産増のかわりに大豆、小麦は切り捨てられました。農協は「クミアイ化学」という農薬や肥料の生産会社を持ち、高度経済成長の中で成長していききました。稲葉氏が指摘するように、一九五〇年代環境共生型農業への見識があれば、日本の農業は違っていた▼稲葉氏は、全国の米農家の技術的指導も担い、有機農業の町、白川町にも、稲葉氏が最初に指導されています。残念ながら稲葉氏は一昨年亡くなれています。（K）

健康とくらし 春秋